

095 イエスの変貌(姿が変わる)－後半(山頂から麓へ)

マルコによる福音書 9 : 9～13、マタイ 17 : 9～13、ルカ 9 : 36

前回(094)イエスの変貌(姿が変わる)の確認

信仰告白をした (092) ペトロは、イエスの受難はないと否定した。そして、エルサレムに上らないで、このヘルモン山のこの場所で「仮庵の祭」を祝うことを提案した。恐らく、秋の祭である仮庵祭が近づいていたのであろう。これはイエスが十字架にかかる、約半年前(ティシュリの月の仮庵祭[マタイ 17 : 4]⇔十字架[ニサンの月])の出来事であった。

09 一同が(ヘルモン)山を下りるとき、イエスは、「**人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない**」と弟子たちに命じられた。

→ルカによる福音書 9:36 その声が出たとき、そこにはイエスだけがおられた。弟子たちは沈黙を守り、見たことを当時だれにも話さなかった。

→イエスはご自身の受難と十字架の上の死、そして神によって復活する事実について弟子たちに語られた。イエスは多くの方が、王のように国を統治する政治的指導者を求めていることを知っていた。

しかしイエスの真の使命は、ご自身が十字架の上で死に、人々の罪を滅ぼし、復活によって死に打ち勝つことにより完成される。

10 彼らは(はじめて)この(受難と復活についてのイエスの)言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。(なぜなら、彼らはメシアであるイエスが死ぬはずがないと思っていたからである。) 11 そして、(頭が混乱する中)イエスに、「**なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか**」と尋ねた。(彼らは、預言されているエリヤが現れ、イエスが御自身の受難と復活の話をされたことで、世の終わりが近いことを悟ったからである。)

→エリヤはイエスが誕生する 800 年以上前のイスラエルの預言者で、後の預言者の中には、神の裁きを警告するために神がエリヤをこの地上に再び遣わすと期待した者もいた。このことから、当時の多くのユダヤ人たちは、メシアが現れる前に預言者エリヤが戻って来るに違いないと信じていた。この根拠は旧約聖書の預言であった(マラキ 3 : 1～4、3 : 23～24)。

それゆえ、多くの人たちはイエスがメシアならばどうしてエリヤが現れなかったのだろうと不審に思ったのです。

【参考】マラキ 3:1～4、3:23～24

<1>マラキ書 3 : 1～4

見よ、わたしは(イスラエルの神の到来[再来]に備えて、祭司と民を導き、正しい献げ物をささげ、あらゆる偶像を取り除かせるために)使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたたちが待望している主は／突如、その聖所に来られる。あなたたちが喜びとしている契約の使者／見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。

だが、彼の来る日に誰が身を支えうるか。彼の現れるとき、誰が耐えうるか。彼は精錬する者の火、洗う者の灰汁のようだ。彼は精錬する者、銀を清める者として座し／レビの子らを清め／金や銀のように彼らの汚れを除く。彼らが主に献げ物を／正しくささげる者となるためである。

そのとき、ユダとエルサレムの献げ物は／遠い昔の日々に／過ぎ去った年月にそうであったように／主にとって好ましいものとなる。

<2>マラキ書 3 : 23～24

見よ、わたしは／大いなる恐るべき主の日が来る前に／預言者エリヤをあなたたちに遣わす。

彼は父の心を子に／子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって／この地を撃つことがないように。

12 イエスは言われた。「**確かに、まずエリヤが来て** (Elijah does come first[NIV]、Indeed, Elijah is coming first[NKJV])、**すべてを元どおりにする。それなら、人の子は苦しみを重ね、辱めを受けると聖書** (→旧約

聖書：詩編 22：2～19、イザヤ 53：3～12) **に書いてあるのはなぜか。**

13 **しかし、(わたしは) 言うておく。エリヤは来たが、彼について聖書に書いてあるように、人々は好きなようにあしらったのである。」**

→エリヤは既に現れ、酷い扱いを受けている (マルコ 9：13) とイエスが言うのは、洗礼者ヨハネのことを語っている (マタイ 11：14)。

→過越祭では、エリヤの席が用意され、食事の後、エリヤの杯にぶどう酒を注ぎ、玄関の窓を開ける。

→詩編 22：2～19、イザヤ 53：3～12

< 1 > 詩編 22：2～19 (22 編：ダビデの詩)

わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。わたしの神よ／昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお許しにならない。だがあなたは、聖所にいまし／イスラエルの賛美を受ける方。わたしたちの先祖はあなたに依り頼み／依り頼んで、救われて来た。助けを求めてあなたに叫び、救い出され／あなたに依り頼んで、裏切られたことはない。わたしは虫けら、とても人とはいえない。人間の屑、民の恥。わたしを見る人は皆、わたしを嘲笑い／唇を突き出し、頭を振る。「主に頼んで救ってもらおうがよい。主が愛しておられるなら／助けてくださるだろう。」わたしを母の胎から取り出し／その乳房にゆだねてくださったのはあなたです。母がわたしをみごもったときから／わたしはあなたにすがってきました。母の胎にあるときから、あなたはわたしの神。わたしを遠く離れないでください／苦難が近づき、助けてくれる者はいないのです。雄牛が群がってわたしを囲み／バシヤンの猛牛がわたしに迫る。餌食を前にした獅子のようになり／牙をむいてわたしに襲いかかる者がいる。わたしは水となって注ぎ出され／骨はことごとくはずれ／心は胸の中で蠟のように溶ける。口は渴いて素焼きのかけらとなり／舌は上顎にはり付く。あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。犬どもがわたしを取り囲み／さいなむ者が群がってわたしを囲み／獅子のようにわたしの手足を砕く。骨が数えられる程になったわたしのからだを／彼らはさらしものにして眺め／わたしの着物を分け／衣を取ろうとしてくじを引く。

< 2 > イザヤ書 53：3～12 (主の僕の苦難と死 イザヤ 52：13～53：12)

彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し／わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように／毛を刈る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか／わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり／命ある者の地から断たれたことを。彼は不法を働かず／その口に偽りもなかったのに／その墓は神に逆らう者と共にされ／富める者と共に葬られた。病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。

【参考】終末論の姿

- Step 1. バプテスマ (洗礼者) のヨハネがメシアの先駆者として奉仕した (→マラキ 3：1 の成就)。
- Step 2. イエスは神の小羊として現れ、メシアとして奉仕した。
- Step 3. 終わりの時代に、預言者エリヤが先駆者として奉仕をする (→黙示録には記されていない)。
- Step 4. イエスは、栄光の王として再臨し、地上にメシア的王国を樹立する。